

自治体職員向け気候変動適応勉強会開催に向けた検討状況

1. 勉強会の概要

- 基礎自治体職員向けに気候変動適応に関する勉強会を行うことで、気候変動適応及び適応計画について学び、地域気候変動適応計画策定のための足掛かりとしてもらうことを目的としている。
- 令和5年度は5つの自治体を対象に3回の勉強会を実施（報告後述）し、今年度も3回の開催を予定している。現在、勉強会の開催を打診する自治体を調査中。

2. 候補自治体の検討（事務局における検討内容）

- 令和5年度の勉強会（実施結果）を踏まえた検討
 - 令和5年度の勉強会では開催自治体以外もWEB参加を可能としており、複数の自治体からのWeb参加があったため、Web参加した自治体を候補として検討。
 - その中でも、資料請求の連絡があった自治体を優先的に候補とする。
- 北海道庁からの情報提供を踏まえた検討
 - 北海道庁における令和5年度末のアンケート調査で「適応策のために独自に計画を策定する予定」もしくは「関連する計画に適応策を記述する予定」と回答した自治体を候補として検討。
 - 北海道庁が地方公共団体実行計画（事務事業編、区域施策編）の策定に関してフォロー（※）している地域（オホーツク総合振興局、十勝総合振興局、上川総合振興局、空知総合振興局）以外の地域を勉強会の対象として検討。加えて特に適応策未策定の自治体が多い振興局を対象とすると、後志総合振興局、渡島総合振興局、留萌振興局が候補として挙げられる。
（※）地方公共団体実行計画の策定において適応策を盛り込むことも含まれている。

3. 適応策推進チームにおける検討状況

- 開催自治体について
 - 振興局ごとの適応計画の策定状況を考慮し、まずは未策定の自治体が多い後志総合振興局、渡島総合振興局、檜山振興局、留萌振興局の自治体を対象とする。
 - 開催自治体の周辺で未策定の自治体にとっても、本勉強会の参加をきっかけに適応計画の策定が進めやすくなる（先に進めるステップを踏むことができる）ことが期待される。また、小規模の自治体が策定することで、周辺の同規模の町への波及効果も期待できると考えられる。
 - 北海道庁における気候変動適応計画の策定状況調査で「自治体を対象にした気候変動適応計画策定のための勉強会が開催される場合、参加したいと思いますか。」という問いを設けている。よって、本アンケート調査結果で「勉強会に参加したい」と回答した自治体を優先的に打診する。その際、地方公共団体実行計画（事務事業編、区域施策編）の改定時期なども考慮する。
- 勉強会のテーマについて
 - 今年度対象に考えている後志総合振興局、渡島総合振興局、留萌振興局は日本海側に位置している。現在、温暖化に伴う海洋生物の分布域の変化が世界中でみられ、日本周辺海域における主要水産資源（回遊性魚介類）の分布域の変化、それに伴う漁期・漁場の変化が起きていることを踏まえると、水産資源・漁業・漁港等に関するテーマを取り上げることも有用と考える。

令和5年度 自治体職員向け気候変動適応勉強会

以下の内容は『令和5年度気候変動適応地域づくり推進事業北海道地域業務報告書』より抜粋。

1. 本別町・池田町

■実施概要

タイトル	自治体職員のための「気候変動への適応」勉強会
日時	令和6年2月19日(月) 10:30～15:30
主催	北海道地方環境事務所
会場	本別町体育館
方法	午前:ハイブリッド(Cisco Webex Meetings) 午後:対面実施
参加人数	午前:対面参加2自治体20名(途中退席者2名程度を含む)、オンライン参加8自治体 午後:対面参加2自治体19名(途中退席者2名程度を含む)

■プログラム

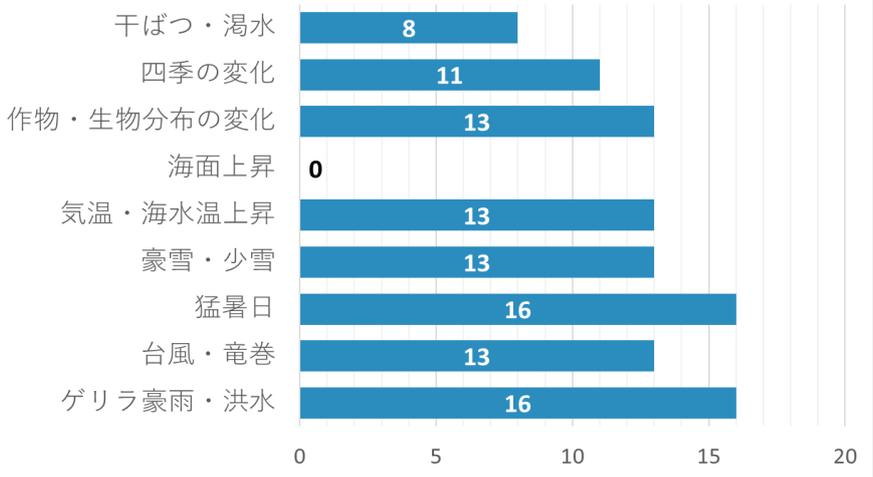
時間		内容
10:00		開場
10:30	配信有	開会挨拶・趣旨説明 / 環境省北海道地方環境事務所
10:35	配信有	地域気候変動適応計画とその策定に向けて / 環境省地球環境局総務課気候変動適応室 室長補佐 秋山 奈々子
11:00	配信有	北海道における気候の現状と将来予測～十勝地方では～ / 気象庁札幌管区气象台 河原 恭一氏
11:25	配信有	地域社会における気候変動影響の適応 / 北海道立総合研究機構 野口泉氏
12:00		休憩
13:00	会場のみ	ワークショップ「地域の気候変動影響と適応策について考える」
15:10	会場のみ	総括・質疑応答
15:20	会場のみ	アンケート記入
15:25	会場のみ	閉会挨拶 / 環境省北海道地方環境事務所
15:30		閉会

■勉強会の様子(午前の部の様子)



■アンケート結果(実施した質問は参考資料3に示す。なお、Q1は個人情報のため割愛する)

Q2: 勉強会についての質問項目																																											
<table border="1"> <caption>Q2: 勉強会についての質問項目の結果</caption> <thead> <tr> <th>質問項目</th> <th>とてもそう思う</th> <th>そう思う</th> <th>どちらでもない</th> <th>そう思わない</th> <th>全く思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた</td> <td>35% (6人)</td> <td>65% (11人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた</td> <td>47% (8人)</td> <td>53% (9人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>3. 北海道の気候の変化について知ることができた</td> <td>65% (11人)</td> <td>35% (6人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた</td> <td>47% (8人)</td> <td>53% (9人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった</td> <td>29% (5人)</td> <td>65% (11人)</td> <td>6% (1人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった</td> <td>18% (3人)</td> <td>76% (13人)</td> <td>6% (1人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		質問項目	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない	1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた	35% (6人)	65% (11人)	0%	0%	0%	2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた	47% (8人)	53% (9人)	0%	0%	0%	3. 北海道の気候の変化について知ることができた	65% (11人)	35% (6人)	0%	0%	0%	4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた	47% (8人)	53% (9人)	0%	0%	0%	5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった	29% (5人)	65% (11人)	6% (1人)	0%	0%	6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった	18% (3人)	76% (13人)	6% (1人)	0%	0%
質問項目	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない																																						
1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた	35% (6人)	65% (11人)	0%	0%	0%																																						
2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた	47% (8人)	53% (9人)	0%	0%	0%																																						
3. 北海道の気候の変化について知ることができた	65% (11人)	35% (6人)	0%	0%	0%																																						
4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた	47% (8人)	53% (9人)	0%	0%	0%																																						
5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった	29% (5人)	65% (11人)	6% (1人)	0%	0%																																						
6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった	18% (3人)	76% (13人)	6% (1人)	0%	0%																																						
質問 1~6 について、回答した理由	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「気候変動に対応する施策」という観点が、今まで考えたことがなかったので参考になった。 ◇ 計画策定が努力義務であることはわかったが、実効性の担保については不透明なままであった。 																																										
Q3: 気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか	<table border="1"> <caption>Q3: 気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>100%</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>0%</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	人数	はい	100%	17人	いいえ	0%	0人																																	
回答	割合	人数																																									
はい	100%	17人																																									
いいえ	0%	0人																																									
Q4: 気候変動適応策を進めるにあたり、一番気にしている(支障となる)ところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 庁内職員、事業者、町民への意識醸成。 ◇ 将来的に、どのような気候変動が起きるかわからない中、今作成し実際に役に立つ対応策なのか心配な面がある。 ◇ 特に第一次産業に従事している人の影響が大きいので、そのような方々からの認知度。 																																										
Q5: ワークショップに参加して良かった点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々な部署の方々と話ができて、知見が広まった。 ◇ 他の町、部署の抱える問題について知ることができた。 ◇ 今から気候変動に適応する計画が必要であることが分かった。 ◇ ワークショップの進め方(流れ)を書いたレジュメが欲しかった。私達 																																										

	<p>の班は会話も弾んだため、一人ひとりの意見も良く聞く事が出来たが、レジュメがあった方がもっとうまく話せたかと思う。</p>																				
<p>Q6: あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、行政の施策・取組に影響があるもの</p>	<p style="text-align: center;">あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、行政の施策・取組に影響があるもの（複数回答）</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>干ばつ・渇水</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>四季の変化</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>作物・生物分布の変化</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>海面上昇</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>気温・海水温上昇</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>豪雪・少雪</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>猛暑日</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>台風・竜巻</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>ゲリラ豪雨・洪水</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	項目	回数	干ばつ・渇水	8	四季の変化	11	作物・生物分布の変化	13	海面上昇	0	気温・海水温上昇	13	豪雪・少雪	13	猛暑日	16	台風・竜巻	13	ゲリラ豪雨・洪水	16
項目	回数																				
干ばつ・渇水	8																				
四季の変化	11																				
作物・生物分布の変化	13																				
海面上昇	0																				
気温・海水温上昇	13																				
豪雪・少雪	13																				
猛暑日	16																				
台風・竜巻	13																				
ゲリラ豪雨・洪水	16																				
<p>Q7: Q6 の影響への対応（適応策）として個人、自治体の職員として取り組みたいこと</p>	<p>個人として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 家庭菜園の作物の変更。 ◇ 内地と変わらない夏の気温帯が続くので、作物の品種改良や作物転換が気になる。 <p>自治体職員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 意識醸成に向けた広報 PR。 ◇ 気候変動が続いてく中で一番大事なものは人命であると考えているため、防災について取り組んでみたい。 ◇ 地球温暖化対策の区域施策編を策定するので、一緒に盛り込めるようにする。 																				
<p>Q8: 勉強会の感想、今後の要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 他の役場の方々との話し合いは非常に有意義なものになった。また、今まで何気なく過ごしてきたが、これからの気候変動について考える良い機会だった。 ◇ 気候変動による影響が、どこまでも連鎖していくことがわかった。 ◇ 30 年前からこのような事が起こると危惧されていたのを知っていても、何もせず過ごしていた町だったため、今になり心配している。実際にこのような現実、少しでも役に立って行けたらと改めて感じた。またこのような機会があれば参加したい。 																				

2. 美幌町・大空町

■実施概要

タイトル	自治体職員のための「気候変動への適応」勉強会
日時	令和6年2月28日(水) 10:30～15:30
主催	北海道地方環境事務所
共催	国立環境研究所
会場	美幌町役場2階 会議室2
方法	午前:ハイブリッド(Cisco Webex Meetings) 午後:対面実施
参加人数	午前:対面参加2自治体9名(途中退席者1名含む)(前日からの大雪への対応業務のため、予定より少人数となった)、オンライン8自治体 午後:対面参加2自治体8名

■プログラム

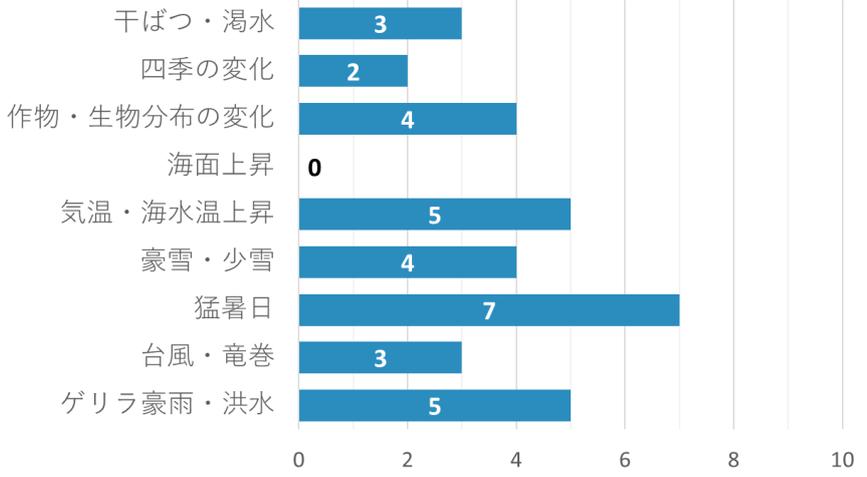
時間		内容
10:00		開場
10:30	配信有	開会挨拶・趣旨説明 / 環境省北海道地方環境事務所
10:35	配信有	地域気候変動適応計画とその策定に向けて / 環境省地球環境局総務課気候変動適応室 室長補佐 秋山 奈々子
11:00	配信有	北海道における気候の現状と将来予測～オホーツク地方では～ / 気象庁札幌管区气象台 河原 恭一氏
11:25	配信有	地域社会における気候変動影響の適応 / 北海道立総合研究機構 野口泉氏
12:00		休憩
13:00	会場のみ	気候変動適応ワークショップ / 国立環境研究所
15:20	会場のみ	アンケート記入
15:25	会場のみ	閉会挨拶 / 環境省北海道地方環境事務所
15:30		閉会

■会場の様子(勉強会午前の部の様子)



■アンケート結果(実施した質問は参考資料3に示す。なお、Q1は個人情報のため割愛する)

Q2: 勉強会についての質問項目																																											
<table border="1"> <caption>Q2: 勉強会についての質問項目の結果</caption> <thead> <tr> <th>質問項目</th> <th>とてもそう思う</th> <th>そう思う</th> <th>どちらでもない</th> <th>そう思わない</th> <th>全く思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた</td> <td>38% (3人)</td> <td>63% (5人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた</td> <td>63% (5人)</td> <td>38% (3人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>3. 北海道の気候の変化について知ることができた</td> <td>63% (5人)</td> <td>38% (3人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた</td> <td>50% (4人)</td> <td>50% (4人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった</td> <td>50% (4人)</td> <td>38% (3人)</td> <td>13% (1人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった</td> <td>25% (2人)</td> <td>63% (5人)</td> <td>13% (1人)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		質問項目	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない	1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた	38% (3人)	63% (5人)	0%	0%	0%	2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた	63% (5人)	38% (3人)	0%	0%	0%	3. 北海道の気候の変化について知ることができた	63% (5人)	38% (3人)	0%	0%	0%	4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた	50% (4人)	50% (4人)	0%	0%	0%	5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった	50% (4人)	38% (3人)	13% (1人)	0%	0%	6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった	25% (2人)	63% (5人)	13% (1人)	0%	0%
質問項目	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない																																						
1. 「気候変動影響への適応法・適応計画」について知ることができた	38% (3人)	63% (5人)	0%	0%	0%																																						
2. 気候変動の影響への適応とは何か知ることができた	63% (5人)	38% (3人)	0%	0%	0%																																						
3. 北海道の気候の変化について知ることができた	63% (5人)	38% (3人)	0%	0%	0%																																						
4. 気候変動の影響、及び適応策を身近な事として捉えることができた	50% (4人)	50% (4人)	0%	0%	0%																																						
5. 地域気候変動適応計画策定の意義や作業の流れが分かった	50% (4人)	38% (3人)	13% (1人)	0%	0%																																						
6. 地域気候変動適応計画策定への意欲が高まった	25% (2人)	63% (5人)	13% (1人)	0%	0%																																						
質問 1~6 について、回答した理由	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で気候変動による影響はあったが、深く考えることはなかったため、今回の講習を通して意識が変わった。 今後の地球温暖化対策に向けて気候変動影響を考慮しながらのまちづくりの必要を感じた。 																																										
Q3: 気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか	<p>気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか</p> <table border="1"> <caption>Q3: 気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>63%</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>38%</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	人数	はい	63%	5人	いいえ	38%	3人																																	
回答	割合	人数																																									
はい	63%	5人																																									
いいえ	38%	3人																																									
Q4: 気候変動適応策を進めるにあたり、一番気にしている(支障となる)ところ	<ul style="list-style-type: none"> 関係部局との連携や環境担当と各部局担当の温度差。 自治体職員の人員不足。 町民の方の意思もないと町として政策が進まないため、町民の意思だと考える。 																																										
Q5: ワークショップに参加して良かった点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> 把握していない他の課が進めている事業などを知ることができた。 地球温暖化の影響がこんなにもある事を知り、具体的な対策を考えるきっかけになった。 																																										

<p>Q6: あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、行政の施策・取組に影響があるもの（複数回答）</p>	<p style="text-align: center;">あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、 行政の施策・取組に影響があるもの（複数回答）</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>干ばつ・渇水</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>四季の変化</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>作物・生物分布の変化</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>海面上昇</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>気温・海水温上昇</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>豪雪・少雪</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>猛暑日</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>台風・竜巻</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ゲリラ豪雨・洪水</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	項目	回数	干ばつ・渇水	3	四季の変化	2	作物・生物分布の変化	4	海面上昇	0	気温・海水温上昇	5	豪雪・少雪	4	猛暑日	7	台風・竜巻	3	ゲリラ豪雨・洪水	5
項目	回数																				
干ばつ・渇水	3																				
四季の変化	2																				
作物・生物分布の変化	4																				
海面上昇	0																				
気温・海水温上昇	5																				
豪雪・少雪	4																				
猛暑日	7																				
台風・竜巻	3																				
ゲリラ豪雨・洪水	5																				
<p>Q7: Q6 の影響への対応（適応策）として個人、自治体の職員として取り組みたいこと</p>	<p>個人として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ なるべく資源を無駄遣いせず環境に配慮した生活をしたい。 ◇ 熱中症対策に取り組みたい。 <p>自治体職員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 熱中症対策として、クールスポットの設置。 ◇ 除雪など、道路に雪が残る場面が多いため、そのあたりの対策に取り組みたい。 ◇ 特産品や町の補助金等、将来を見据えた取り組みを行いたい。 																				
<p>Q8: 勉強会の感想、今後の要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 計画策定の参考になった。今後もご支援をいただきたい。 ◇ 大変勉強になった。 																				

3. 新篠津村

■実施概要

タイトル	自治体職員のための「気候変動への適応」勉強会
日時	令和6年3月8日(金) 10:30～12:00
主催	北海道地方環境事務所
会場	新篠津村役場 2階会議室
方法	午前:ハイブリッド(Cisco Webex Meetings)
参加人数	対面参加○自治体○名、オンライン13自治体

■プログラム

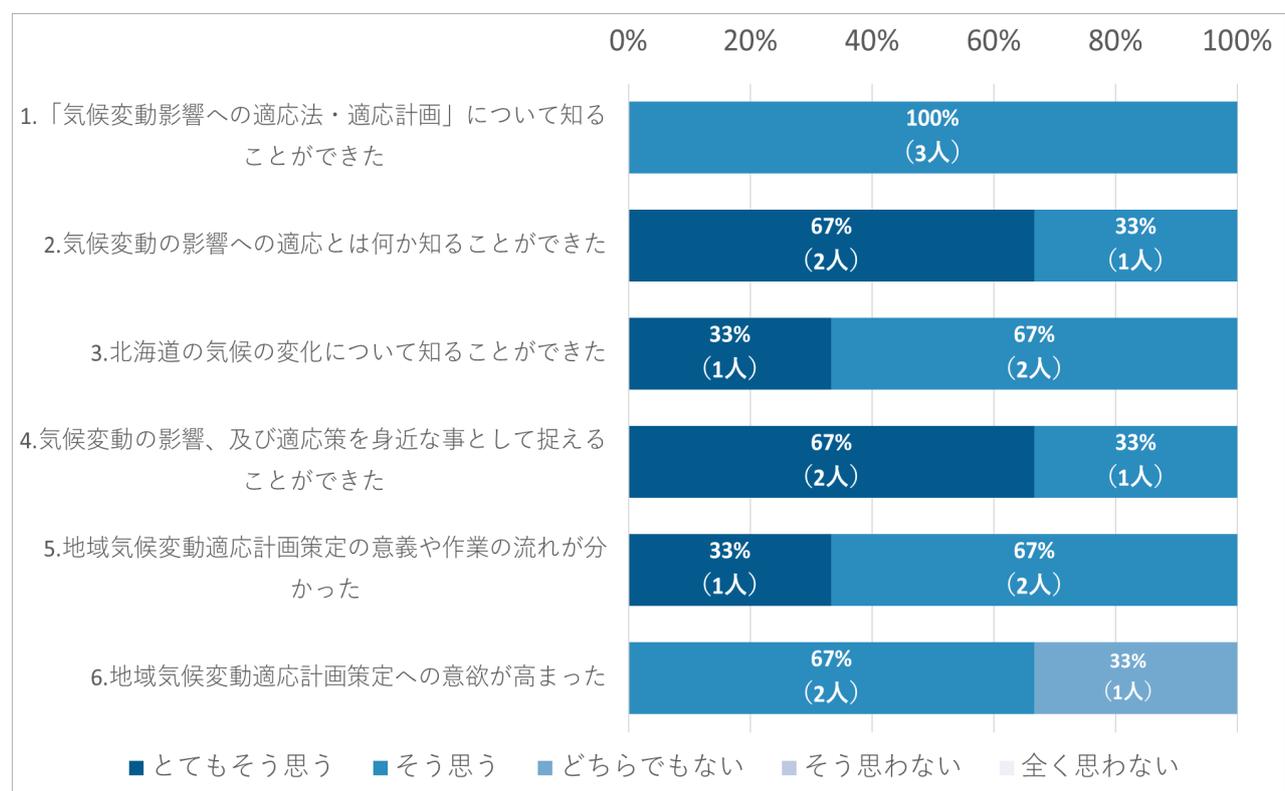
時間		内容
10:00		開場
10:30	配信有	開会挨拶・趣旨説明 / 環境省北海道地方環境事務所
10:35	配信有	地域気候変動適応計画とその策定に向けて / 環境省北海道地方環境事務所
11:00	配信有	北海道における気候の現状と将来予測～石狩地方では～ / 気象庁札幌管区气象台 河原 恭一氏
11:30	配信有	地域社会における気候変動影響の適応 / 北海道立総合研究機構 野口泉氏
12:00		閉会

■会場の様子(勉強会午前の部の様子)



■アンケート結果(実施した質問は参考資料3に示す。なお、Q1は個人情報のため割愛する)

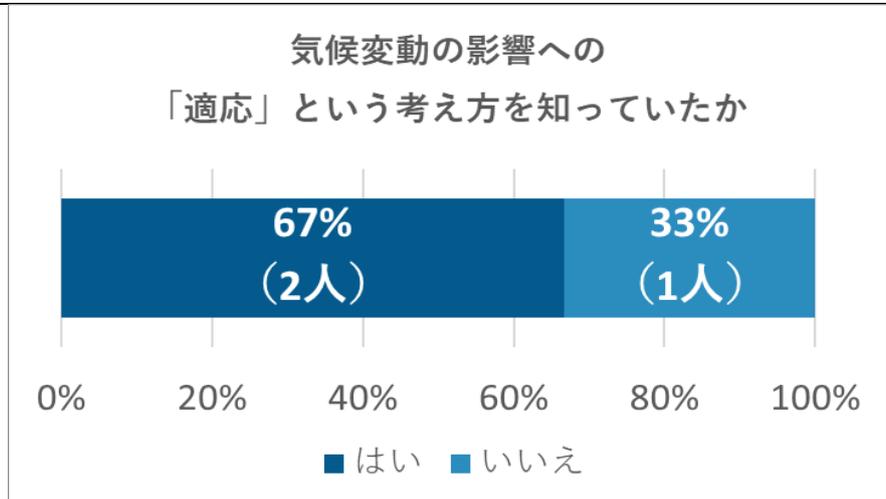
Q2: 勉強会についての質問項目



質問 1~6 について、回答した理由

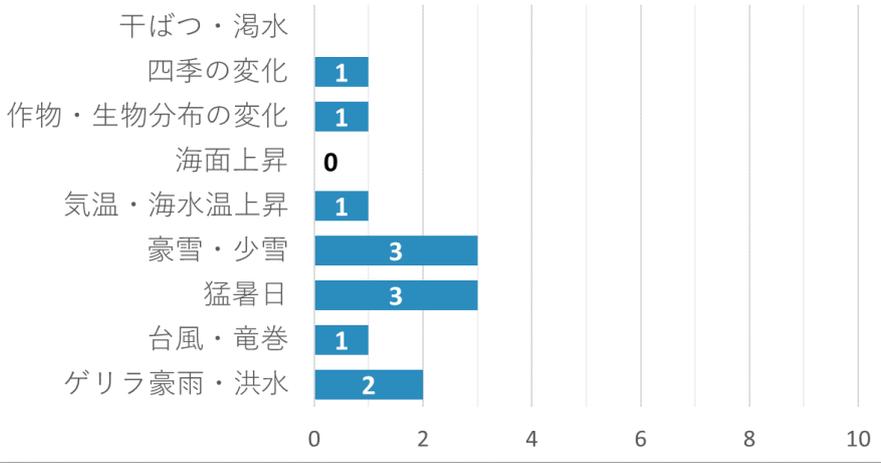
◇ 回答なし。

Q3: 気候変動の影響への「適応」という考え方を知っていたか



Q4: 気候変動適応策を進めるにあたり、一番気にしている(支障となる)ところ

◇ 気温の上昇
◇ 地域住民の理解

<p>Q6: あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、行政の施策・取組に影響があるもの</p>	<p style="text-align: center;">あなたの自治体における住民の生活や事業者の活動、 行政の施策・取組に影響があるもの（複数回答）</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>干ばつ・渇水</td><td>0</td></tr> <tr><td>四季の変化</td><td>1</td></tr> <tr><td>作物・生物分布の変化</td><td>1</td></tr> <tr><td>海面上昇</td><td>0</td></tr> <tr><td>気温・海水温上昇</td><td>1</td></tr> <tr><td>豪雪・少雪</td><td>3</td></tr> <tr><td>猛暑日</td><td>3</td></tr> <tr><td>台風・竜巻</td><td>1</td></tr> <tr><td>ゲリラ豪雨・洪水</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	項目	回数	干ばつ・渇水	0	四季の変化	1	作物・生物分布の変化	1	海面上昇	0	気温・海水温上昇	1	豪雪・少雪	3	猛暑日	3	台風・竜巻	1	ゲリラ豪雨・洪水	2
項目	回数																				
干ばつ・渇水	0																				
四季の変化	1																				
作物・生物分布の変化	1																				
海面上昇	0																				
気温・海水温上昇	1																				
豪雪・少雪	3																				
猛暑日	3																				
台風・竜巻	1																				
ゲリラ豪雨・洪水	2																				
<p>Q7: Q6 の影響への対応（適応策）として個人、自治体の職員として取り組みたいこと</p>	<p>個人として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 回答なし。 <p>自治体職員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 温暖化対策の諸計画の実行をサポートし、対策となる事業を進めたい ◇ 地球温暖化対策実行計画の策定 																				
<p>Q8: 勉強会の感想、今後の要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域ごとに気候変動の影響が異なるようなので、来年は異なる地域でやってほしい。 																				